（別紙4） 2024 年

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 （ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 6年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 7年 4月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 3月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・看取り介護を受け入れている 早い段階でご家族様にアンケートをお願いし、ご意見やご希望を伺うことができている 体調の変化に伴い、再度確認や相談を行っている
・入院された際には、すぐに退居ではなく、出来る限り退院後当ホームへ戻り再び生活を送っていただける様な支援をしている
・入居者様の誕生日は当日にお祝いする事を基本としている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの理念にある“尊厳を維持し、自己決定を尊重しつつ残された能力を最大限に発揮し、健康で安全な生活を継続する”は、これまでの生き方を可能な限り“そのまま継続”することを第一とする思いが込められている。外国人職員採用の際は、施設長が理念の“尊厳”を分かりやすく伝え浸透に努めている。居室への入室時には必ず本人と職員が一緒に入り、移動が困難な場合は居室が見える位置より離れて見守る等、尊厳への配慮を徹底している。また、ユマニチュードの研修を通じて尊厳を重視したケアを実践し、居室では日記や読書など自宅のような環境で生活できるよう支援している。フェイスシートには人生年表欄を設け、ケアプラン表では本人や家族の思いを詳細に汲むなど独自の様式を活用している他、入居者の誕生日は当日に祝い、看取りに対応する支援体制を整えている。尊厳を重視し、真摯に支援するホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目:23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目:18,38）		1. 毎日ある
		〇	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目:38）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目:36,37）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目:49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目:30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目:28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目:9,10,19）	〇	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目:2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目:4）	〇	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目:11,12）	〇	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カードにしたものを配布したり、玄関や事務所、タイムカードの横等に掲示したりしているが、改めて見直す時間を作ったり、職員の入れ替えの際の指導が追いついていない事が現在の一番の課題である	理念をホーム内に掲示し、理念カードを用いて職員への浸透を図っている。外国人職員採用の折は、施設長が理念にある“尊厳”を分かりやすく伝えている。また、ユマニチュードの研修を通じて、目線を合わせるなど尊厳を重視したケアにより、安心できる生活を支援し理念の共有と具現化に日々取り組んでいる。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は特に面会制限や外出制限もしていない為、ある程度新型コロナウイルス感染流行以前と同様に戻っており、ご家族様・ご親類との交流は日常的にあり、冠婚葬祭に出かけていただいたり、街路樹の花がきれいに咲いた時は散歩に出かけたりもした	自治会に加入し、施設長と管理者が地区の防災訓練等積極的に活動している。コロナ禍を経て4年ぶりに就労継続支援事業所と合同の餅つき大会を開催したり、神社初詣客への振舞用の豚汁作りに入居者も野菜切りなど行い、地域住民と触れ合っている。また、小浜温泉湯祭りでは入居者全員が見物し、地域交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度になるが令和6年2月雲仙市地域包括支援センターの方より依頼があり、『高齢者見守り声かけ訓練』にお手伝いとして参加認知症の方と認知症ではない方の見分け方等持っている知識を説明させていただいた		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、身体拘束廃止推進委員会を奇数月に行っており、入居者様の状況、イベントについての報告、事故の種類や件数報告等行っている　各回の内容については、玄関にファイル設置し、ご家族様へは報告書を送付している　毎月の有り難いお言葉や助言等を収穫としサービス向上に活かす様努めている	運営推進会議は年に6回、対面により規程のメンバーを満たし開催している。入居者近況報告、写真資料による行事報告、事故の種類や件数報告等の他、意見交換も活発で詳細な議事録から透明性が窺える。意見交換による助言や地域の情報を得るなど運営や支援に活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	マイナンバーカードをお持ちでない入居者様方について相談を行い、出張申請に来ていただけるという事でわざわざ説明にも来て下さった　お持ちでない入居者様全員の必要書類などが揃う迄、何度も電話やメールにて打ち合わせや相談に応じていただき、無事に全員のカードが作成できた	市の職員による訪問がある他、行政主催のオンライン研修等に参加している。マイナンバーカード出張申請手続きなども連携するとともに、日頃からメールや電話などで必要な情報を得たり、不明な点を問い合わせている。地域包括支援センターからの依頼で、施設長が“高齢者見守り声かけ訓練”に参加する等、協力関係を築いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	物理的な身体拘束でいうと、転落や転倒を予防すべくベッドに設置し動きを知らせる離床センサーを、必要な方に使用させていただいているが、それよりも問題なのは言葉での抑圧で動きを制限させる事であり、折に触れ職員間で注意し合う必要がある	指針を整備し、身体拘束適正化検討委員会を2ヶ月に1回運営推進会議と同日に開き、転落・転倒予防のための離床センサー使用状況や検討事項を報告している。言葉の拘束など、職員間で検討し拘束のない支援に取り組んでいる。外部研修後等の資料を基に、年2回は内部研修でフィードバックし全職員の理解や周知を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会による虐待についての研修会が毎年開催されるので、必ず出席する様にしており、内容を共有できるように努めている　言葉だけでは分かりにくいので、具体的な例を出して、起こり得る事として考え、そして意識づける様に説明している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これ迄『成年後見制度』を利用されている入居者様はユニットに存在しなかったが、ご家族様の問題で必要に迫られて手続きをされた方がおられた　遠方のご家族様であったが、一つ一つ流れやその進捗等を説明下さり、その都度職員にも情報を共有でき、ご家族様と一緒に学ぶ事ができたという感覚を持つ事ができた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する一切は、施設長のみで対応行っている特にご家族様との関係性やご自宅での様子、これ迄の人生で大切にされていた事、入居後に望まれるお姿等出来る限り情報を聞き出せる様に努めている又、看取り介護についてホームの姿勢を伝え、その時点での見解をお聞きし、考えが及ばない場合はご検討の機会としていただける様お願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員数が一時に減少した際、ご家族様にはご心配を与える事になるかと、サービスの質の低下や不安の増強等には相談いただきたい事、転居を検討されたい際にも申し出を、というご家族各位に向けた手紙を近況報告に添付し発信した　相談やお申し出はなくご心配下さるご家族様ばかりで、大変有り難い事であった	ホームでは、苦情受付体制として意見箱の設置や窓口対応を行っている。職員は、家族に手紙を送ったり面会時や電話で入居者の様子を伝え、不安なことや気になることを何でも話せる関係づくりに努めている。家族から、食べ物の持ち込みや外出などの要望があり、柔軟に対応し、家族の意向を尊重した支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	この項目ができていなかった為に、職員の減少を止められなかったのではないかと反省している　少数精鋭となり、残る職員の団結力もあり、何とか職員一人ひとりの負担が軽減できる様にしていきたい　できれば意見の吸い上げができる場を作れればと思っている	管理者は、スタッフ会議や各種ミーティングの場を活用し、現状の課題や業務に関する職員の意見、提案を聞き取っている。特に施設長が同席しないミーティングでは、職員が意見を出しやすいよう配慮し、管理者が職員の思いを汲み取りながら、仲介役を担い、意見の吸い上げと職場環境の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の減少により代表者が夜勤の現場に入る事によって、現場の事やその苦労等も実感でき、今後の環境整備、条件整備に反映できる様努力していく		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の減少は、研修の受講にも制限、支障を来す事もあり受講数は減ったが、その中でも興味のある希望の研修には率先して参加してくれる職員もおり、知識や技術の習得を支援したい今後は外国人雇用も予定しており、教育の軸をしっかりと作っていきたい		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前述の通り研修の受講数が減る中で、同業多職種協働の研修会の際などは出来る限り参加の機会を作り、交流を広げる事ができる様に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際にはご本人様にお話を聞ける場合はお聞きするが、難しい場合はご家族様から聞き出す様にしている　ご入居後、少しずつ生活の様子が解っていく中で聞き出せる事もあり、全職員で聞く態勢を作る様にしている　これ迄の経験では、ご入居直後は食事量が少なく心配する程の方も、職員の努力により十分量になった方が数名おられる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンとご本人様との関係性、ご家族様それぞれとご本人様、キーパーソンとの関係性等含め、ご本人様を囲む環境としてのご家族様全体を把握する様に努め、ご面会の度それぞれの思いが聞ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に受けていたサービスが入居後に受けられなくなる事がある、という説明を行っている　その代わり、入居後は入居者様、ご家族様の希望に寄り添い、望まれている生活に少しでも近づける様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、言葉を発する事が難しくなった方や、他入居者様方と同じ時間帯での行動が難しい方等も、お一人お一人に対して行動一つ一つ確認行い、その日その時の状況に応じて対応行う努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会をその日の内にお忘れになる入居者様には、出来る限り忘れない内に、ご自身の字でその時の記録を残していただき、ご面会の際は一緒に写真を撮っていつでも見られる様にして安心していただいている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様よりお名前や地名がでてきた際には、記録へ残す様にしている　外出支援については、ご自宅へ外出できている入居者様は少数であるが、ご家族様の代わりに帰宅の支援行ったり、帰宅した際には親戚の家に同行したりしている	職員は、入居者の生活歴を尊重し、フェイスシートに人生年表欄を設け、職員間で共有し支援に繋げている。家族や知人、踊りの生徒の訪問や外出、外泊の機会がある人や毎週自宅へ戻る人、馴染みの店への買い物や地域の文化祭への参加など、これまで築いてきた人や場との関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行が顕著な入居者様がおられ、それに伴い関係性が好転するという事が起き、食事の席を替える事ができた　それにより、ユニットの雰囲気も少し和やかになった様に見えるので、今後も関係性には配慮していきたい		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられ退去となった方のご家族様より、改めてお手紙などで温かいお礼の言葉を頂くことがある　年賀状でのやりとりが続いているご家族様もいる　温かい言葉を頂ける事がやりがいでもあり、これからも続けていきたい		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『帰りたい』『甘いものが欲しい』『何か飲みたい』といった要望がある　帰りたいと仰る方へ帰る段取りや予定を一緒に考えるだけでも安心に繋がる事が多い　甘いもの、水分は体調に無理のない様提供させていただく事がある	職員は、入居者一人ひとりとの会話を大切にし、把握した意向から、個々の生活スタイルを尊重した支援に努めている。会話が難しい場合には、その背景や状況を考慮して筆談を用いたり、家族と連携したりしながら意向を汲み取っている。指先でのサインなど、わずかな動きや表情からも気持ちを汲み取り、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前やされた後でも、ご家族様より話を伺う事が、一番大きい情報である　入居者様ご自身からは、子供の頃の話など、たくさん聞かせて下さる事があるので、情報の一つとしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活習慣を土台とし、普段と違う事があった際には、記録に残す様にしている　ご家族様と面会後に不安となる方がおられ、記録に残しミーティング時に不安が軽減する様な工夫について話し合うなどしている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティング、毎日の申し送りでの報告と相談の場があるが、現在入居者様がしたい事への支援が難しくなっている事もある（特に外出支援）　ケアプランに沿った介護、支援が徐々にできなくなっているので、改善が必要である	毎月のミーティングで入居者の状況を話し合い、担当職員、計画作成担当者の意見を集約している。家族の要望は面会時や電話で聞き取り、計画に反映し、同意を得ている。ケアプラン表では本人・家族の思いを詳細に汲む等、ホーム独自の様式を活用している他、入居者が達成可能な簡素化した目標を作成し、個人日誌と連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌を毎日記録しており、普段との変化や発言された内容を記入している　特変と思われる事、体調不良はホーム日誌へ記録し、情報を共有できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望がある際には、傾聴する事でなぜその様な言葉が出たのかなど、原因を考え、解決できる様に努めている時には、ご家族様へ相談し、協力を頂く事もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様のみならず、これまで築かれてきた関係性を続けていただける様ご友人などのご面会も自由にしていただいている　又、訪問診療、訪問歯科、訪問理美容など利用したり、地域のイベントには参加していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際はご本人様やご家族様の希望を確認し、ご要望あればなるべく副う様にしている　受診が難しくなった方には、ご家族様と相談し訪問診療へ変更し、変更後の主治医へご家族様の要望をお伝えし希望に副った医療が受けられる様支援している	入居者の多くは協力医による定期的な訪問診療を受けている。従前のかかりつけ医等の通院も可能であり、基本的に家族同行としている。都合によっては職員が同行し、受診内容は報告して共有している。週1回訪問看護師と契約するとともに、協力医とは24時間医療連携体制を取っており、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師が来設し、異常がないか診ていただいている　気になる事など報告、アドバイスしていただき、緊急受診へ繋がる事もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、ご家族様へ連絡し手続きなどお願いしている　早期退院できる様、又ご家族様の希望に副った支援ができる様、医療機関との連絡をとり、情報を得る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては、ご家族様にアンケート様式で書いていただいたり、その時々の体調変化によりご家族様と話し合いの場をもったりしている　急変した場合も、ご家族様にきちんと説明行い、納得していただけている	看取り支援体制を整備し支援を重ねている。重度化・看取り介護指針を入居時に家族に説明し、同意を得ている。重度化した際、アンケート式の意向確認書により再聴取を行っている。「大事な最期を支援させてもらう」という意義を話し合い、チームとしての意識も高い。内部研修で看取りをテーマに開催する等、積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時、都度対応している　何が急変なのか理解できていない職員もいる為、普段と違う事が分かる様に観察力を身に着ける必要がある　事故などあった度に説明行っているが、実践力として身に着く迄時間を要している職員もいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災の避難訓練は定期的に行っているが、自然災害時の訓練含め、繰り返し行っていかなければいけないと思われる	年2回日中想定、夜間想定による消防避難訓練を行っている。消防署の都合により立会いは実施していない。施設長と管理者が地区の防災訓練に参加し、自治会との連携体制を築いている。ただし、BCPを作成しているものの、自然災害時の避難訓練は行っていない。また、備蓄の整備もこれからである。	入居者を有事の際に守ることを第一に、自然災害対策として、BCPを基に、断水や停電等を想定した訓練等内容を検討の上、実施することに期待したい。並びに備蓄の整備が待たれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室に入る際には声かけし、一緒に入る様にしている　入居者様の排泄時など、職員間の会話が入居者様に聞こえていたかもしれない場面があり、反省し職員同士で気を付けなければならない	職員は、入居者を尊重した支援に取り組んでいる。居室に入る際は必ずノックと声を掛けてから入室し、少しでも居室の掃除ができる入居者とは一緒に行うなど、プライバシーに配慮している。個人情報は事務所で管理し、写真等の使用については同意書を取得している。職員は守秘義務や誓約書を交わし、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『お茶が飲みたい』『外出したい』等の要望に対し、対応できる様心がけている　言葉で意思を伝えられない方は、表情で読み取ったりトイレ等お連れしご本人様が何をしたいのか導き出せる様に努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の時間に合わせて起きたり就寝したり、していただいている　居室で休みたい時は休んでいただき、歌を聞きたい方にはDVDやカラオケの音楽を提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、更衣等、出来る方はご自身にて行っていただいている　ご自身でできない方は声かけ行い出来るところまでお願いし、その後のフォローを行ったり、職員にて行った場合もご本人様に確認をとる様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々の状況やタイミングを見て、配膳や盛付、食器洗いなど入居者様にお願いし、一緒に行っている　調理などはお一人お一人出来る事を大事にし、参加していただいている	食事は、職員が考えた献立と配食業者を組み合わせ提供している。入居者は、盛り付けや下準備など食事づくりに関わる機会もある。お饅頭作りや郷土食、季節行事にあわせた献立など食文化も大切にしている。交流のある施設の弁当購入、餅つきへの参加など、食を通じた楽しみや交流の機会を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食がある場合は声かけ行い、なるべく完食していただける様にしている　栄養面で不足していると思われる場合は、高カロリー食品やその方のお好きなものなど提供する様にしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際はご自身にて行っていただき、仕上げを職員が行うなど、手伝いが必要な入居者様には、職員にて対応行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツ類は使用しない様にしているが、必要となられた方は小さめのパッドから始め、毎月のオムツ類の支払いを見つつ、過剰に使用していないか確認している　又、入居者様の中には『トイレ』の言葉を発する事ができなくなった方もおり、トイレのサインや表示を見ていただき、お連れしている	職員は、排泄チェック表を活用し、ケース会議や申送りを通じて支援状況を検討している。日中は座位によるトイレでの排泄を基本とし、本人が自分の意思でトイレに行けるよう見守りや声掛けしている。職員は、入居者の体調変化を把握しながら、オムツからトイレ使用への移行や失敗の軽減に努め、不快感なく過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は毎日ある方、２～３日に一度の方、それぞれその時々で違う為、排便状況は熱型表にて確認している　それに応じて水分量を増やしたり、主治医へ薬の量が適切か相談している　申し送りでも排便が2日ない方は報告する様にしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に副えない事も多いが、都度説明行い、毎朝の更衣の際、爽快感を感じられる泡の清拭料を用いたり、陰部洗浄行ったり出来る限り清潔保持に努めている　入浴の拒否がある方には、声かけを工夫したりご家族様に相談したり、努力している	ホームは温泉水を活用しており、週2回を入浴日としている。入浴日以外はドライシャンプーを実施し、毎朝の更衣時には清拭を行っている。入浴では季節の湯を取り入れたり、本人の好みに合わせたシャンプーを用意するなど、心地よく入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在夜間不眠の方はいないが、時にトイレの後に『トイレに連れて行って』と何度も言われる方がいる　都度説明行い納得される迄何度かトイレへお連れしたり、ホットミルクを提供してみたり、出来るだけ眠剤服用せず、安眠できる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は全て職員にて行っている　服薬の際は氏名、日付、朝・昼・夕を確認し、一日分の薬のセットも間違いがない様2名で行う様にしている　受診の際薬の変更があった場合は、申し送りで全職員が把握できる様伝え、変更後は体調の変化などないか確認も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在女性の方ばかりなので、家事は『手伝いましょうか』と声をかけて下さるのでお願いしている　漢字を練習したり、カラオケの歌を聞いたり歌ったり、お一人お一人が楽しく過ごしていただける様努力している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しい状況の時もあるが、ベランダや駐車場に出て日光浴をしながら外の空気を吸っていただいたり、出来る事で対応している　買物は入居者様と一緒に行き対応している　地域の行事は出来るだけ参加できる様に心がけている	入居者が気分転換や楽しみを持てるよう、外気浴や建物周辺、ターミナルまでの散歩を支援している。菓子の購入のために外出したり、プロレス観戦、花見や神社への参拝、ドライブ等がある。交流のある施設の餅つきへの参加や、家族の協力による自宅への外出、墓参り等、入居者一人ひとりの思いや希望に寄り添った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来る方には自己管理していただいているが、買い物をした後は、職員と一緒にレシートと残金を合わせる様にしている　又、自己管理していない方も、訪問販売の際など、ご自身で支払いをしていただく等、対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望がある時は、職員が間に入り対応している　少し難聴の為ご家族様の声が聞こえない時は、職員にて声かけながら会話がスムーズに進む様支援している　贈り物が届いた際はハガキにお礼を書いていただき一緒に投函している　ご家族様の名前を書く練習を日課としていただき、ご面会の際見ていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンにより室温は快適に過ごしていただける様にしているが、エアコンの風を不快に思われる方もいる　その時々で風の当たらない場所に席を移動したり、出来る限り快適に過ごしていただける様努力している	リビングでは入居者がソファで職員とお手玉などを通じて交流している。旅館を改修し、落ち着ける環境を整えている他、懐メロやカラオケなどの活動で皆が楽しんでいる。ユニット入口には行事写真コーナーを設け、活動の様子が伝わり、明るい雰囲気を演出している。職員は、温湿度を適温に保ち、毎日の掃除で環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の居心地のいい場所はそれぞれに違い、一人が寂しい方は食堂で、お一人が落ち着く方、ベッドでゆっくり休みたい方は居室で、職員のそば、特に台所が落ち着く方は台所で、等それぞれに合った対応をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族様の写真を飾ったり、植木が好きな方はご家族様から贈られた植木を飾ったり、ご自宅で使用していた布団を持ってきていただいたり、それぞれの入居者様が少しでも安心して過ごせる居室になる様努力している	馴染みの時計や小物、家族の写真、テレビなどを持ち込み、机で日記をつけたり、植木に水をやったり、ステッパーで歩行訓練を日課にする等、自由に過ごす様子が窺える。温泉地の賑わいや行事の花火が楽しめる居室もある。入居者は洗濯物を自室で干し、職員と掃除をしながらこれまでの生活を続け、清潔な環境で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には名前を書いて貼ってあり、余り間違って入られる事はないが、時にトイレと間違われたり、夜間電気がついている他の方の居室へ入ろうとされる事がある　その都度どこへ行きたいか確認行い対応している		

（別紙4）　2024　年

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 （ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 6年11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 3月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・職員一人一人が入居者様に向き合い、寄り添った介護に努めている
・ご家族様の要望にも常に耳を傾け、安心して過ごしていただけるホーム作りを行っている
・職員間の雰囲気もよく、意見が言いやすい職場作りをしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カードにしたものを配布したり、玄関や事務所、タイムカードの横等に掲示したりしているが、改めて見直す時間を作ったり、職員の入れ替えの際の指導が追いついていない事が現在の一番の課題である		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の湯祭りや、神社の例大祭など、地域の行事も通常に戻り、ホームとしても以前の様に道行やご巡行を裏通りに面した駐車場から見物していただく行事が、恒例に戻った　入居者様からの要望もあり、神社の祭りへお連れしたところ、入居の事を知るご友人と会われ、『心配しっとった～』と涙ながらに再会を果たされ、大変喜ばれた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度になるが令和6年2月雲仙市地域包括支援センターの方より依頼があり、『高齢者見守り声かけ訓練』にお手伝いとして参加認知症の方と認知症ではない方の見分け方等持っている知識を説明させていただいた		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	退居に至る迄の苦情をお受けした際は、その内容と反省点や課題点等を運営推進会議にて報告し、助言を頂き励みになった　参加のご家族様方のご商売でも起こる“苦情”に対する対応策などもお聞きする事ができた		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居前からの関わりで、入居後もご家族様含め支援が必要な方について、昨年に引き続き一年以上に亘り地域包括支援センターを始め、雲仙市の福祉事務所の各課、雲仙市社会福祉協議会、法テラス等各方面の専門家の方にお世話になり、滞っていた入居料の支払いに対する対策を練り、確実に支払いができる道筋を立てて下さった		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床センサーに加え、リクライニング式の車いすに角度をつけて、自力では降りられない様にして休んでいただく時がある　転落予防の為とはいえご本人様が不快な思いをされていたら別の方法を検討するが、これ迄は気持ちよさそうに休まれている方には有効策として対応させていただいている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会による虐待についての研修会が毎年開催されるので、必ず出席する様にしており、内容を共有できるように努めている言葉だけでは分かりにくいので、具体的な例を出して、起こり得る事として考え、そして意識づける様に説明している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前述の行政に関わっていただき、ご家族様の経済面のネグレクトという理由で『福祉サービス利用援助事業』を利用する流れになった事例に関しては、職員の理解も深める事ができたと思われるが、今後は制度一つ一つの違い等を理解していく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する一切は、施設長のみで対応行っている　前述の“苦情対応”行った方に対しても、契約の時点で説明を行っていたが、十分ではなかったことが今回身を以って分かったので、今後はなるべくご家族様の気持ちに寄り添い、出来る限りご理解を求められる説明が行える様に努めていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	繰り返しとなるが、この度の“苦情”お申し出は、我々介護側、主治医等の医療側、そして被介護側のご家族様の間で見解の相違が生まれた事によるものであった　入居後大変喜んでいただいていたにも拘らず、ある事をきっかけにそれ迄の信頼も崩れてしまい、誠意を伝える外に術はなかったので、今後もこの件を常に忘れず反映させていきたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	この項目ができていなかった為に、職員の減少を止められなかったのではないかと反省している　少数精鋭となり、残る職員の団結力もあり、何とか職員一人ひとりの負担が軽減できる様にしていきたい　できれば意見の吸い上げができる場を作れればと思っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の減少により代表者が夜勤の現場に入る事によって、現場の事やその苦労等も実感でき、今後の環境整備、条件整備に反映できる様努力していく		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の減少は、研修の受講にも制限、支障を来す事もあり受講数は減ったが、その中でも興味のある希望の研修には率先して参加してくれる職員もおり、知識や技術の習得を支援したい　今後は外国人雇用も予定しており、教育の軸をしっかりと作っていきたい		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前述の通り研修の受講数が減る中で、同業多職種協働の研修会の際などは出来る限り参加の機会を作り、交流を広げる事ができる様に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際にはご本人様にお話を聞ける場合はお聞きするが、難しい場合はご家族様から聞き出す様にしている　ご入居後、少しずつ生活の様子が解っていく中で聞き出せる事もあり、全職員で聞く態勢を作る様にしている　ご本人様の不安とご家族様の不安を聞き逃さず、一つ一つ対応し、生活の場としての環境を作り上げていく様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ある程度ご面会の時期が分かっているご家族様については、それまでにお伝えすべき事や相談内容を準備しておき、しっかりとご家族様とのやり取りが充実したものになる様に努めている　近況報告にも、出来る限り普段の様子が伝わる様に配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に受けていたサービスが入居後に受けられなくなる事がある、という説明を行っている　その代わり、入居後は入居者様、ご家族様の希望に寄り添い、望まれている生活に少しでも近づける様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前はお一人で人生歩んで来られ、頼れる家族も近しくはなく、その事に自負やプライドが強い入居者様がおられ、自分で出来るという自信に邪魔される余り介護に対する拒否や拒絶もあり一般的には難しい方といわれる方も、職員を信用し『皆様がいないと私はダメですね』と感謝の言葉を言って下さる様になった		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食が細くなった入居者様のご家族様に、ご本人様の好物をお聞きしたり、その好物を準備していただいたり、購入をお願いしたりして、提供する時には『〇〇さんからですよ』とお伝えすると喜んで食べて下さるなど、ご協力いただく事もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前述の神社のお祭りにお連れした方は、神社近くの自宅にも寄りたいと希望されお連れする予定としていたが、偶然会われた妹様も喜んで下さりお二人で仲良く帰宅された　帰りにはご自身で選ばれた衣類を持参された		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動を理解する事が難しい方もおられ、共に生活をする他の入居者様に理解を求める事も又難しくもあり、全体を和やかにする事ができない場合もあるが、お一人お一人の笑顔が少しでも引き出せる様努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族様にお会いした際は、様子を伺ったり話をしたり、亡くなられた場合は葬儀へ参列させていただいている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より入居者様同士や職員との会話の中で、どの様な事を思われているのか、又したいと思われているのか、自然な形で知り得る事を理想とし、必要に応じて対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際ご本人様やご家族様に生活歴を聞いたり、ご本人様と交流する中で教えていただくなどしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活習慣の違いもあり、お一人お一人の過ごし方もあるので、ホームで生活する上では、お一人お一人の行動を大切にし、安全に生活できる様に支援している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、入居者様の変化や気になる事を出し合い、職員全員で共有し介護計画を作成、計画に沿ってケアを行って行く様に心がけている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の排便・食事・行動・特にいつもと違った言動などあれば日誌に記入すると共に、口頭でも伝えている　大切な内容は赤字などで記入し、確認漏れのない様に工夫している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅・受診・外出等の希望や必要性がある場合、ご家族様に相談する等出来る限りご要望に副える様努めている　高齢の入居者様と妹様との食事会をご家族様が計画され、同行依頼を受け久しぶりのご帰宅も果たされた　その方にとって最期の兄妹面会となり喜ばれた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や、時期に応じての外出など、参加、外出支援行う様にしている　又、病院受診時等の外出中、顔馴染みの方々と出会った場合は、職員が間に入りお話を楽しんでいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、又は訪問診療を受けていただいている　ご家族様やご本人様から、何らかの要望があったり、心配な事がある場合など、間に入り医師へ相談行ったり、受診の予約をとる等支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来設時には、ホームでの様子や気になる事を報告し、助言を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、特に気を付けてほしい事はきちんと伝える様にしている　又入院中の様子は、面会に行ったり、病棟の看護師や病院へ連絡して状況を聞く等し、退院への準備を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に看取りについての説明を行い、少しずつご家族様のお気持ちやご希望を確認しながら、ご家族様や主治医と相談を重ねつつ看取り期に向かう事ができる様に努めている　ご家族様への説明を十分に行っていたつもりでも、ご家族様との温度差がある事に後に気づく事があり、今後に繋げていくべき事例もあった		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急処置などのマニュアルや指導は受けているが、いざとなった場合、全職員がスムーズに対応できるかは難しいと思われる　その為、実践力を身に着け全職員が対応できる様にしたい		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災の避難訓練は定期的に行っている自然災害を想定した訓練も、今後定期的に行い、全職員が落ち着いて入居者様を誘導できる様にしたい		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩でもあり、認知症であっても人格、意思はある事を尊重すべきである　各居室への入室は一緒に行う事を基本とし、一緒に入室できない場合は、理由を伝え許可を頂き入室する様にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かご希望があれば一番良い方法を考え取り組む様にし、出来ない時はきちんと説明し納得していただくか、違う形で対応できないか提案している　軽度の認知症の方より、職員や他入居者様と同じ衣類や靴の購入希望があり、対応する事もあった		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを把握し、出来る事はお手伝いしていただき、感謝の気持ちを伝え、必要とされている事の喜びも感じつつ生活していただきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつご家族様などの来客があってもいい様に、という事を常に頭に置き、その人らしい身だしなみをしていただいている　先ずはご自身にてしていただき、不十分な部分があれば職員がお手伝いし、いつまでもその人らしくいられる様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人に合った出来る事、食材の皮むき、おにぎり作り、米研ぎ、食事前後のテーブル拭き、箸並べ、皿洗い、盛り付け等など、楽しみながら行っていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食の提供を基本とし、食べる事が難しい場合はその日の状態に合わせた形態へ変更し、食べる事を継続できる様努めている　水分も多めに摂っていただける様工夫しながら提供している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケア行い、十分でない方、出来ない方には職員が補助や介助を行っている　歯科の居宅療養管理指導も受けていただき、口腔内の清潔保持、感染予防にも努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方はご本人様にお任せしているが、困った様子が見受けられた場合は、お声掛けをさせていただいている　介助が必要な方は定期的に声かけしお連れしている　又表情や様子の変化がないかも、気を付けて見守り行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の排便状況を把握し職員同士で情報共有、必要であれば服薬での排便を促す様コントロール行っている又日頃より水分補給を大切にしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持や身体状態も把握したい為、その日の体調に合わせたり、希望時に入浴していただいている　ゆっくり入浴を心がけ、『気持ちよか～』とホッとされている様子もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人が『お休みなさい』とご自分のペースで入床されており、現在皆様安眠されている様子　不眠の方があれば、昼間の様子と照らし合わせ、対策を検討する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分かり易い様に、薬袋にマジックで日付や名前を記入し、服薬前に職員とご本人様共に間違いないか確認し、与薬している　口元からこぼれ落ちないか、飲み込むまでを確認行う様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人ずつへの対応は現在難しい事もある為、全員で楽しめる様な内容を考え、提供している　又お一人お一人日付や記名練習など実施している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要な物品が不足した場合など、一緒に出掛け、ご本人様に自力で選び好きな物を購入していただく様にしている　神社の例大祭に行きたいとの要望あり、お連れしてご友人やご家族様に会われ、思いがけずご自宅への帰宅も果たし大変喜んでいただいた		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理が難しい方は、ホームにて管理している　買い物などで使用された分は、ご本人様へお伝えし残金をお知らせしている時々訪問販売にきていただき、自ら支払いまでしていただく機会も作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方がおられ、ご本人様からの要望時は職員が番号を押し、又かかってきたことに気づかれていいない時は操作の対応する等、直接お話しできるサポートを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は殆どの方がリビングにて過ごされているので、空調の温度や湿度などに気を付けている　又入居者様同士の関係性を保つような座席の配置支援をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて過ごされる際、それぞれのペースで新聞を読まれたり、テレビを視聴されたり、入居者様同士で雑談されたりと、ゆっくりとした時間が流れている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ご自宅から持って来られたものやプレゼント、ご家族様との写真を飾ったりして、安心できる空間になる様努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の各場所を分かり易く貼り紙などで案内表示している　居室入口にはフルネームで記入し、分からなくなった場合は、職員が同行するなどして安全に移動できる様にしている		